サービス / モビリティ / スペースの 有機的連携による 「賑わい創出」と「経済活性化」

Mellow

2024/10/16



株式会社Mellow 代表取締役社長 / CEO

石澤 正芳

2001年、GPSを活用し出店位置情報を発信するカフェカーを開業。

モビリティとしてのフードトラック事業の可能性と、個性豊かな料理人の魅力に触れ、フードトラックで業界の確立を目指す。2004年から現在の事業モデルを模索して80ヶ所以上のフードトラック出店スペースを開発。

20年以上にわたり述べ4,000店以上のフードトラックと関わり2,000件以上の国内外フードエリアの企画・運営業務に携わる。その後、株式会社Mellowを創業。

フードトラック業界と空地活用に精通し、様々なショップモビリティ(移動型店舗)の持続的な事業形態の確立とそれを活用したスペースの継続的なにぎわいの創出を模索している。

会社について

社名	株式会社Mellow / Mellow Inc.
代表者	石澤 正芳
創業日	2016年2月18日
事業内 容	モビリティビジネス・プラットフォー ム事業
資本金	9億846万2,000円(資本準備金を含む)
従業員	51名(役員含む)
所在地	東京本社 東京都千代田区四番町2-12 四番町THビル7F 大阪支社 大阪府大阪市北区梅田2-4-9 ブリーゼタワー2F SYNTHxBusiness-Airport内 福岡支社 福岡県福岡市中央区大名2-6-11 Fukuoka Growth Next内 名古屋支社 愛知県名古屋市西区那古野2-14-1 なごのキャンパス内3階

主要株主





それぞれの豊かさを、それぞれの想いで。

あらゆるものが比べられる時代、 人々は誰かと比べた豊かさに囚われているように見えます。

そんな時代だからこそ、 わたしたちは誰かと比べた豊かさではなく、 それぞれが自分らしい豊かさを見つけられることを願っています。

それぞれの豊かさを満たすのは、それぞれの想いです。 「想い」とは、大企業であれ個人であれ、 誰もが持っている原動力です。 それぞれの豊かさを叶える気持ち、 それこそが「想い」です。

それぞれの豊かさを、それぞれの想いで満たし続けられる社会を実現すること。

これがわたしたちの掲げる、Mellowの存在目的です。













会いたいお店がやってくる。

わたしたちは「会いたいお店がやってくる」ことをあたりまえにして、 それぞれの豊かさをそれぞれの想いで満たし続けられる仕組みを実現していきます。









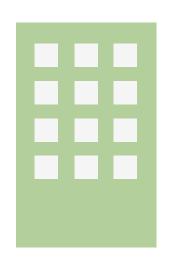






店舗型モビリティのプラットフォーム

BUS STOPがバスの停留所なら SHOP STOP はお店の停留所。 SHOP STOPには毎日色々なお店がやってきます。







スペース 🗶 店舗型モビリティ 🗶 ユーザーのマッチング

SHOP STOP はスペースと店舗型モビリティ事業者のマッチングによって、周辺のユーザニーズに適したサービスを持続的に提供し続けるモデル



3,000台超の店舗型モビリティ事業者との連携



全国で1,100台以上が出店可能なスペース運営

会いたいお店がやってきて、なんでもない場所が、うれしい場所に。



























商業ビル



マンション



公園



市役所

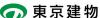
不動産デベロッパーをはじめ、ゼネコンから事業会社、 自治体、政府機関まで

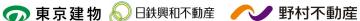
不動産デベロッパー



















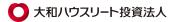


J-REIT









事業会社

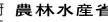






自治体・政府機関・大学



















プロパティマネジメント

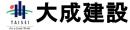






ゼネコン



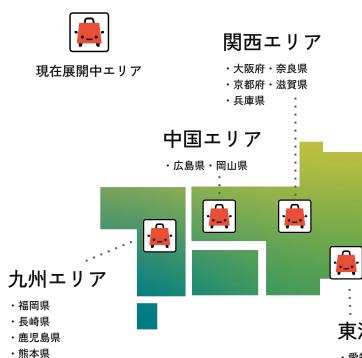


全国約1,100スペースで展開

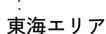




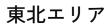




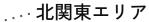




- ・愛知県・岐阜県
- ・静岡県



- ・秋田県
- ・宮城県



・群馬県

首都圏エリア

- ・東京都
- ・神奈川県
- ・埼玉県
- ・千葉県







SHOP STOPの展開エリア・規模

Summary

年間 100万人超が利用

(60万食/月、40万人/月)

※2023年の提供食数647万食SHOP STOPスタンプカード利用データなどから概算

全国21都道府県に展開

※2024年4月時点

全国750のビルや公園で展開

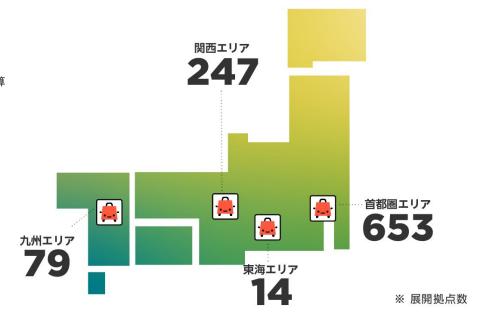
※2023年実績

3,000台キッチンカーが登録

※2024年4月時点

アプリMAU 6万人超

※GoogleAnalyticsによる集計





秋田県 / 宮城県 / 群馬県 / 東京都 / 神奈川県 / 埼玉県 / 千葉県 / 愛知県 岐阜県 / 静岡県 / 大阪府 / 奈良県 / 京都府 / 滋賀県 / 兵庫県 / 広島県 岡山県 / 福岡県 / 長崎県 / 鹿児島県 / 熊本県

SHOP STOPプラットフォームの特徴

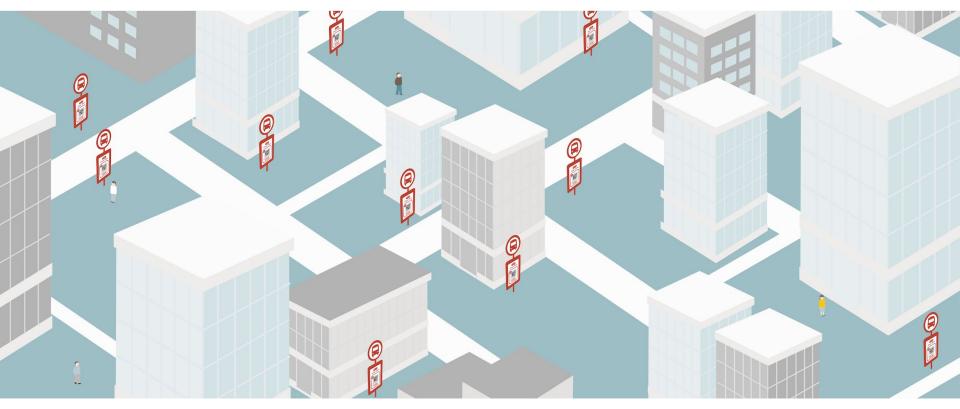
モビリティの機動力を最大限に発揮する為、 出店場所が常に変わって行くことが前提の配車出店モデル



なんでもない場所に、



SHOP STOPができると



サービス事業者を配車するプラットフォーム

うれしい場所に。

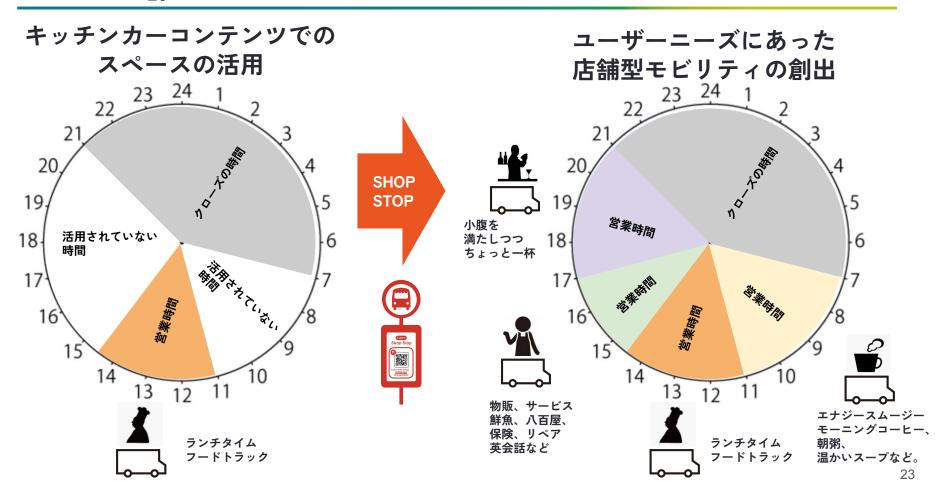


期間・時間を横断したプラットフォーム

時間がかわれば、楽しい場所にも



コンテンツ創出のプラットフォーム



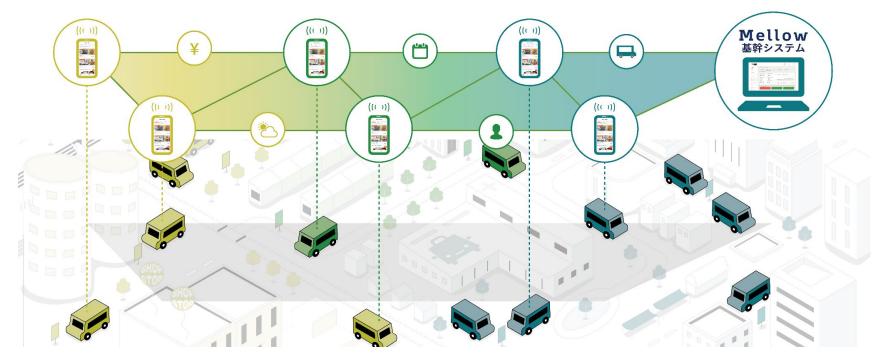


サービス(お店)が移動する



プロダクトの特徴

自社で開発している管理システムとアプリにより、各店舗型モビリティ事業者の情報と配車先のスペースの情報を蓄積・データ化して、三者 (事業者・スペースオーナー・ユーザー) にとって最適な配車を目指すプラットフォーム



基幹システム「SHOP STOP管理画面」

SHOP STOPに関連する様々な情報を一元管理。

事業者管理・精算、出店選考、アプリの情報掲載など。事業者毎に専用ページを 設けて店舗型モビリティ事業者のサービス向上に繋がる情報も提供。



主な機能

- 事業者情報及び書類の一元管理
- · 売上報告 · 集計機能
- ・出店スケジュール管理機能
- ・出店募集・応募・選考
- おやすみ報告機能(アプリ連動)
- 販売ログ分析機能





フードトラック登録事業者 に出店スペース毎の販売 データを公開し、メニュー 改善や指導に活用

売上や稼働率等の指標のリ アルタイムのトラッキング や高度な分析にBIツールを 活用

「SHOP STOP管理画面」のジャーニープログラム

事業者の評価制度:パートナージャーニープログラム 売上やメニューだけではなく、ルールの遵守、成長率、営業実績、継続出店、衛生基 準などのキッチンカー事業者の「努力」を可視化し、独自の評価付けを展開。スペー スと事業者の配車マッチングをシステマチックに最適に。



ユーザーへの情報提供

出店場所MAP・出店情報・クーポン販促機能搭載の「SHOP STOPアプリ」

管理システムと連動したSHOP STOPアプリにより出店場所、出店事業者情報、クーポン機能、スタンプカード機能を展開。



「主な機能)

登録地点周辺の移動店舗をリスト表示 提供メニュー表示 キャッシュレス対応、アレルギー表示 料理ジャンルで検索 キッチンカーのブックマーク機能 キッチンカー出店通知機能 スタンプカード・クーポン機能

ユーザーニーズの把握

SHOP STOPアプリを活用してユーザーニーズをキャッチアップ

アンケートやアプリューザ属性よりニーズを把握して最適配車へつなげる



中長期ビジョン

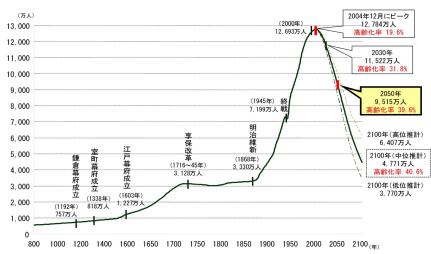
SHOP STOPの展望

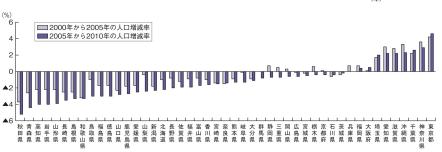
SHOP STOPは固定店舗では成立しえない地域でも店舗型モビリティの強みを活かして地域課題を解決

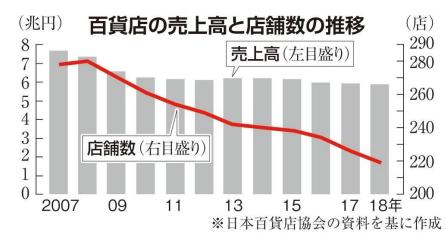


地方の需要減少によるサービスの枯渇

人口減と二極化で地方の内需が減少 → 不動産モデルの百貨店が閉店







西武大津店閉店 創業者の出身地で44年、最終日は2 万5000人来店



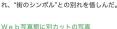
22年の歴史に幕 宇都宮パルコ閉店、思い出永遠に【動画】







宇都宮パルコ、31日閉店 市内事業継続へ、テナ ントが模索



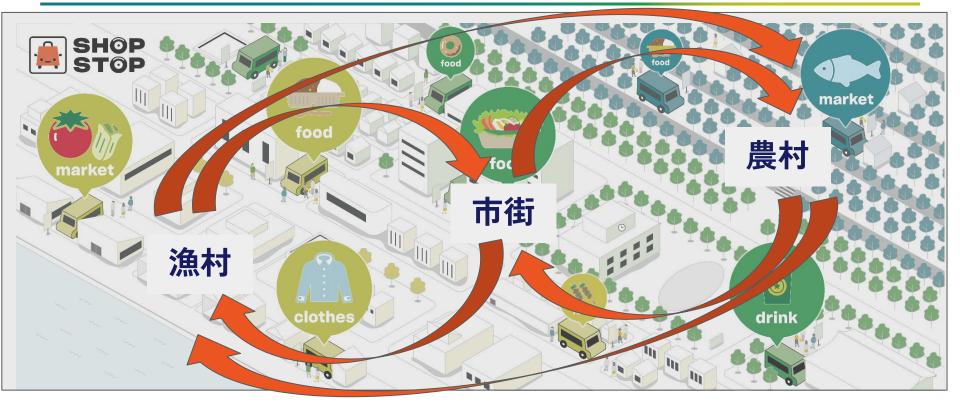
38

宇都宮市中心部のファッションテナントビル

人がつながる場所、SHOP STOP (地方型コンセプト)



必要なサービスを地域内循環



地方都市の中でサービスを循環

店舗型モビリティによる移動商店街

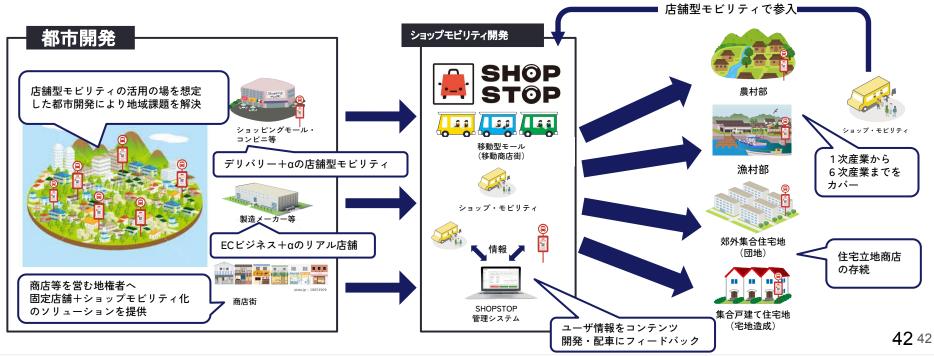
買い物困難地域、需要の少ない商圏に対して週1、月1で展開。 利用者を同じ日、同じ時間に集約して店舗型モビリティ事業者の収益も確保。



店舗型モビリティを活用した都市開発モデルの構築

持続可能な都市開発モデルとして、 店舗型モビリティと固定店舗を融合した都市モデルを構築

都市部のランチ難民。地方でのシャッター商店街化よる買い物困難者。地域創生。

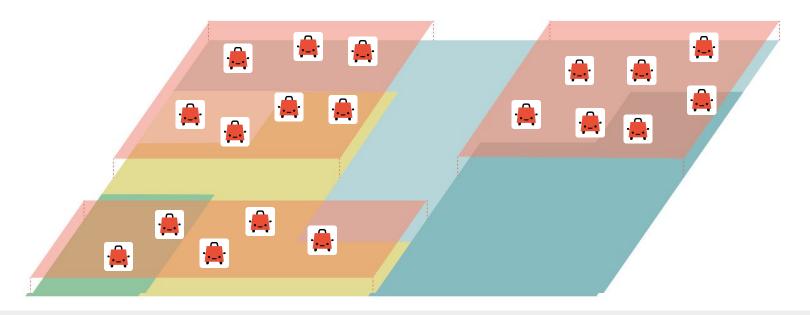


SHOP STOPは現実世界の「街」規模の経済圏を構築します。

他 エリマネ 行政

土地の「所有者」に縛られない立場から、店舗型モビリティプラットフォームを街・エリアの新たな「OS」とし、さまざまなオーナーの土地をつなぎ合わせて、新たな街・エリアを形成する。

SHOP STOPを通して見える店舗型モビリティの世界



リアルな現場でありながら、その現場は土地所有者や行政の境と言った物理的な区分けとは異なる形で、時間によっても移ろう形で構築し、現実を拡張していく在り方となります。

ARデベロッパー 店舗型モビリティxスペースを移動産に。(≒不動産)

SHOP STOPエリア

Z:郊外型

SHOP STOPエリア

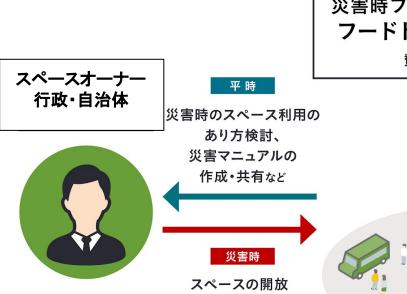
X:都心オフィス街型

SHOP STOPエリア

Y: 住宅街型

店舗型モビリティと出店スペースを一つの物件と捉え、プラットフォームがARデベロッパーとして日々の実績データに基づきリーシングを行っていく。 持続的にニーズにあったサービスを街に提供。

平時のSHOP STOPが発災時に災害支援のプラットフォーム



災害時フード支援ネットワーク フードトラック駆けつけ隊

賛同の呼びかけ

平時

プロジェクト 主旨への賛同署名・ 災害時の社会貢献 意識を共有

H

フードトラック

事業者

災害時

ボランティア希望者 現地での炊き出し・ 支援物資の 運搬など

プロジェクト替同

約200社

※2020年12月時点

参考:店舗型モビリティの災害支援

SHOP STOPプラットフォームを活用して全国での店舗型モビリティ事業者と自治体とのネットワークにより発災時の支援活動を円滑に

